



# 芝川小だより

6月号 No.3  
令和8年5月29日  
さいたま市立芝川小学校



## ともに過ごすということ

雨に濡れる紫陽花が美しく咲く季節となりました。雨だけでなく暑さにより、外での活動が制限される日が増えてきましたが、子どもたちはその中でも、係活動をしたり図書室に行ったりと工夫しながら、落ち着いて学校生活を送っています。思いきり体を動かさせないのは残念ではありますが、こうした日々も心の成長を育む時間として、子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。

さて、先日、乙武洋匡さんが50歳を迎えられたという記事を目にしました。乙武さんの著書『五体不満足』は1998年に出版され、約580万部のベストセラーとなりましたが、小学生時代の実体験をもとにした「オトちゃんルール」は、小学校の道徳教材としても扱われ、皆さんも目にしたことがあるのではないのでしょうか。

「オトちゃんルール」の代表的な例の一つに、野球の場面があります。

オトちゃんは、車いすから降りてバットを脇の下にはさみ、体をくると回してバットを振ります。しかし、よい当たりをしても速く走ることができないため、どうしてもアウトになってしまいます。そこで、オトちゃんが打つときには、隣のバッターボックスに友だちが立ち、打った瞬間に代わりに走り出すという特別なルールがつけられました。これが「オトちゃんルール」です。

お話集会で芝川小の子どもたちに質問したのは、「オトちゃんルールを作ったのは誰か」ということです。「オトちゃんルール」を作ったのは、先生でもなく、オトちゃん本人でもなく、一緒に過ごしていた周りの友だちでした。子どもたちは、オトちゃんを特別扱いすることなく、遠ざけることもなく、新しいルールを生み出しながら、違いがあっても一緒に過ごせるよう自然に工夫していたそうです。

私たちには、大なり小なりさまざまな違いがあります。「自分と違うから」といって否定したり遠ざけたりするのではなく、「どうすれば一緒に過ごせるか」を考えることは、いじめのない学校づくりへの大切な一歩ではないかと思えます。

乙武さんが50歳を迎えた際、「友人たちに前祝いをしてもらったよ」と、ケーキを前にした写真をお母様にLINEで送ったそうです。すると返ってきたのは、「半世紀生きた。あの子が!」という言葉でした。その一言に、乙武さんは胸が熱くなったといいます。そして、その思いを次のように綴られています。

「あの子が!」—— そうだね。「両手と両足がない状態で生まれてきた」あの子がね。生まれてしばらくは、「一生寝たきりかもしれない」と思われていたあの子がね。半世紀も生きたんだもんね。(乙武さんの「no+e」より)

6月のいじめ撲滅強化月間に向けて、子どもたちに何を話そうかなと考えていた時に出会った記事でしたが、教師として、また親として、大切なことを見つめ直す時間をもらったように思います。

早いもので、1学期ももう折り返し。今月もどうぞよろしくお願いいたします。



1年生を迎える会では、1~6年生が一緒に楽しめる「アブラハムの子」を、みんなで踊りました